

令和 2年 2月

村瀬由貴 学位論文審査要旨

主 査 片 岡 英 幸 教授
副主査 佐々木 くみ子 教授
同 山 本 美 輪 教授

主論文

Examination of related factors of nursing care for foreign patients and nurses' communication skills

(外国人患者の看護と看護師のコミュニケーション能力に関連する要因の検討)

(著者：村瀬由貴、山本美輪、清水純)

平成28年 International Journal of Japanese nursing care practice and study
5巻 14頁～19頁

参考論文

1. Investigation of trends in nursing research using text mining temporal changes in the research themes of pre-doctoral and master's nursing programs

(博士課程前および修士課程の看護プログラムの研究テーマにおけるテキストマイニングの経時的変化を使用した看護学研究の動向の調査)

(著者：清水純、富田元、村瀬由貴、山下敬、中田牧人、山本美輪、世古留美、三吉友美子)

令和元年 International Journal of Japanese nursing care practice and study
8巻 1頁～6頁

学 位 論 文 要 旨

Examination of related factors of nursing care for foreign patients and nurses' communication skills

(外国人患者の看護と看護師のコミュニケーション能力に関連する要因の検討)

本研究目的は、外国人患者ケアの内容と看護師のコミュニケーション能力の関連要因を明らかにすることである。

方 法

対象は、近畿圏内の外国人患者受診率の高い総合病院に勤務する外国人患者へのケア経験のある看護師19名で、データ収集は、半構成の面接より逐語録を作成し、外国人患者ケアの内容とコミュニケーション技術についてキーワードとなる単語や文節を抽出した。分析は、テキストデータマイニングソフト富士通「トレンドサーチ」を用いて、単語や文節の出現頻度や相関関係または単語間の依存関係などをマッピングで可視化した。

結 果

分析対象者は、近畿圏内に所在する病床数300床以上の総合病院5施設に勤務する看護師16名、助産師3名の計19名であった。性別は全て女性で、年齢は20歳代～50歳代、平均臨床経験年数は12.6年であった。また、英語の話せる看護師は2名、スペイン語の話せる看護師は1名であった。分析の結果、1「外国人患者」、2「活用」、3「対応」、4「実感」、5「外国人患者看護」の5つのクラスターと関連ワードの関係線が形成された。

1. クラスター「外国人患者」

「外国人患者」は、「北米系」「中南米系」「アジア系」「中国系」「欧州系」「中東系」「アフリカ系」の外国人患者が認められた。特に「中国系」「外国人患者」との関係線が強く、「外国人患者」「文化の違い」「慣習」と関連していた。

2. クラスター「活用」

「活用」では、「外国人患者の文化に関する知識」「易しい英語」「ジェスチャー」「単語」「会話集」「易しい日本語」「家族による通訳」「友人による通訳」「辞書」「通訳」「筆談」「保健センターの連携」との関係線が強く認めた。

3. クラスター「対応」

「対応」では、「文化の理解」「観察」「希望に沿う」「笑顔」「確認」「予測」が認められた。また「文化理解」は「対応」と強い関係線を認めた。

4. クラスター「実感」

「実感」では、「慣習」「食べ物」「文化の違い」「受容」「宗教」「医療」「難しさ」

「コミュニケーション」「母国語のみ」「意思疎通困難」「コミュニケーションストレス」が認められた。この中では「実感」「慣習」「文化の違い」の関係線が強く認められた。

5. クラスタ「外国人患者看護」

「外国人患者看護」では、「関心」「コミュニケーションスキル」「語学力」「通訳」の関係線が認められた。

考 察

看護師(19名)への面接内容をテキストデータマイニングしたところ、1「外国人患者」、2「活用」、3「対応」、4「実感」、5「外国人患者看護」の5つのクラスタと関連ワードの関係線が形成された。

外国人患者の看護で実感することは、コミュニケーション困難で、言語的コミュニケーションだけでなく、外国人患者の文化の違いを実感し受容することの難しさに関連していた。そして外国人患者とのコミュニケーション時は、意思疎通が困難な状況で五感と医療知識・経験知を用いて対応していた。また、文化に関する知識やジェスチャー、易しい英語、日本語の活用、母国語のみの患者へは、辞書や会話集、家族や友人の通訳を利用していた。これは、医療通訳が状況に十分に対応できていない現状で、医療通訳配備の問題は、喫緊の課題だと示唆された。一方、治療目的で来日する外国人も少なからず、治療目的の外国人患者には、医療の格差を踏まえた継続性や医療中断など多岐に渡る問題があった。これらより、国籍や言語、宗教など様々な文化背景を理解し患者のケアを行う必要性が示され、看護師は外国人患者の文化と自国の文化差異の認識を尊重し受容することで外国人患者へのケアの質が向上すると考える。

結 論

外国人患者の看護と看護師のコミュニケーション能力に関連する要因を明らかにするため、テキストデータマイニングを行った。その結果、1「外国人患者」では、「北米系」「中南米系」「アジア系」「中国系」「欧州系」「中東系」「アフリカ系」、2「活用」では、「外国人患者の文化に関する知識」「易しい英語」「ジェスチャー」「単語」「会話集」「易しい日本語」「家族による通訳」「友人による通訳」「辞書」「通訳」「筆談」「保健センターの連携」、3「対応」では、「文化の理解」「観察」「希望に沿う」「笑顔」「確認」「予測」、4「実感」では、「慣習」「食べ物」「文化の違い」「受容」「宗教」「医療」「難しさ」「コミュニケーション」「母国語のみ」「意思疎通困難」「コミュニケーションストレス」、5「外国人患者看護」では、「関心」「コミュニケーションスキル」「語学力」「通訳」で関連がみられた。これより、看護師は、外国人患者の多様な文化や慣習の違いを実感し、人的・物的資源を補完的に取り入れたコミュニケーション方法を看護ケアに実践しており、ニーズに対する看護師の対応力、他言語コミュニケーションスキル向上の必要性が示唆された。